

キリストの聖体
ルカ 9・11b-17

2013.6.1. 18:30 ミサ
マルセリーノ・フォンツ
(クラレチアン宣教会司祭)

今日わたしたちが祝っているキリストの聖体の神秘の意味を深めるために、今日の典礼は、イエス様がなさったパンを増やす奇跡が述べられています。奇跡は神の国のしるしであり、その奇跡によって、神さまの救いはどのように行われているかということが示されています。イエス様がなさった奇跡の大部分は、人々の病気を癒す奇跡でした。今日の福音の箇所の中にもこういうことが述べられています。しかし、今日の福音の箇所で述べられている奇跡は、また全然違うしるしではないかと思えます。もちろん、これも神のみ国のしるしです。神のみ国はどのように実現されているかということを表しているしるしなのです。イエス様が病気を治したときに、いつもそれを望んでいた人々の信仰に基づいて奇跡は行われました。

しかし、今日の奇跡は、弟子たちの信仰に基づいている奇跡ではないのです。かえって、弟子たちは「わたしたちにはこのたくさんの人々に食べさせる力がない。何もできない」と思っていました。イエス様は自分の弟子たちに、そのように信じるようおっしゃったわけではないのです。弟子たちに別のことを頼まれたのです。「あなたたちは食べ物をどのくらい持っていますか」という。パン5つと魚2匹、このわずかな食べ物。だから、「これを出しなさい。これを分け与えなさい」という。弟子たちに協力を頼まれただけです。みんなを50人の組にして座らせるように、また、イエス様が祝福し裂いたパンを、弟子たちが配るよう協力を望まれたのです。今日のこの奇跡は、信仰の奇跡ではなくて、分かち合いの奇跡ではないかと思えます。

でも、この奇跡は、神の国のしるしとしてとても大事な奇跡なのです。4つの福音書すべてに述べられているのです。やり方が少し違うかもしれないけれども、こういう奇跡は神の国の実現のために欠かせない奇跡ではないかと思えます。神の国は分かち合うことによって実現されるのです。神さまの救いの働きは、神さまだけが行っている働きではない。わたしたち一人ひとりの協力も必要とされています。まず、その協力は、自分に与えられている賜物、わずかなものかもしれないけれども、まずそれを人々と分かち合うことによって、神の国が始まります。わたしたちみんな持っている賜物、命を支えている食べ物、

ほんとお互いに分かち合わなかったら、神の国が実現されない。

今日読まれたこの奇跡は、キリストの聖体の神秘を理解するために大事な奇跡ではないかと思います。キリストの聖体、これは交わりの奇跡なのです。交わりによって行われる神秘なのです。イエス様のご聖体をいただくことによって、わたしたちは、キリストとの交わり、神さまとの交わりに与る者になります。しかし、この交わりは、その教会の交わりの神秘も表しているのです。わたしたちは、キリストのご聖体をいただくことによって、わたしたち自身がキリストの体になります。こういう教会の交わりの神秘、わたしたちが与えられた賜物を分かち合うことによって実現される神秘なのです。だから、ご聖体は教会の奇跡でもあります。教会の神秘を表しているしるしでもあります。だから、ご聖体をいただくということは、ただ自分のための恵みをいただくだけではないのです。キリストとの交わりに与って、わたしたちはその交わりに生きるように望まれているのです。だから、ご聖体はただ聖堂で行われる神秘だけではないのです。考えてみると、わたしたちの生活の中で行われている、実現される奇跡なのです。だから、ご聖体こそ神の国のしるしとなります。わたしたちが神さまから与えられているものを分かち合って、神さまの働きに協力することによって、神の国が実現されます。この世は神のみ旨によって救われるし、神さまのいのちによって一人ひとりが生かされるのです。

ご聖体は、キリストの現存の奇跡でもあります。キリストがわたしたちと共におられる、そういうしるしでもあります。しかし、キリストがこのようにわたしたちの間に現れるということは、ただ祭壇で捧げられるパンによってだけではないのです。わたしたちの生活の中で分かち合うことによって、お互いに共同体、キリストの体を築き上げることによって行われる奇跡なのです。キリストがわたしたちの間にこういう形で現れます。教会に来られない方、信者でない方にも、キリストの現存、キリストの交わりを配って行かなければならない。これこそわたしたちのキリスト信者としての使命ではないかと思います。

わたしたちは、ミサに与ってご聖体をいただくときに、これを十分に意識しているでしょうか。十分にその神秘を生きようとしているでしょうか。今日、新たに全教会と共にキリストの聖体を祝うことによって、わたしたちが与えられている恵み、与えられている招きを感謝し、それに応えることができるように願いながら今日のミサを続けましょう。